



海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

会長メッセージ

□ シアと聞くとネガティブな暗いイメージですが、今は様変わりしています。暗くて長い冬やひどい交通渋滞は相変わらずですが、路上駐車が消え、拡張された歩道はきれいなタイルで敷き詰められ、息をのむほど美しい街頭イルミネーションが増え、怪しい白タクに代わりネットタクシーとカーシェアリングが幅を利かせ、不良警官が消え、笑顔で優しいロシア人が溢れ、レストランのサービスが向上し、英語標識が増え、地下鉄の英語アナウンスがあるなど、枚挙にいとまがありません。
翻ってモスクワ稲門会。ウクライナ危機後の

駐在員減少や娯楽・交流機会の多様化などで、ソフトボール・ゴルフ大会は開催を見送っていますが、バーベキューやボウリング大会は多くの会員が家族連れで参加し、和気あいあいとした集まりになっていますし、総会や送別会では語り合い、勇気をもらい、交流を深めています。
先輩先人の方々が繋いでくださり、設立11年を迎えたモスクワ稲門会。今後とも会員みんなで盛り上げ、また次の年代へと繋いでまいります。

尾畑博信(1991年文学)

会員からのメッセージ

「立場を超えて語り合える」。稲門会はその大事な場です。責任ある立場になられた方ほど、立場と発言を気にしないで語れる場がある、そのありがたさを痛感するのではないのでしょうか。モスクワの稲門会になると、その気楽な場が同時に生活を支える場にもなります。「子どもはどのインターナショナルスクールに行かせればよいのか」「暗い冬に気が紛れる習い事は何があるのか」など、生活に不可欠な情報を知ることのできる数少ない場でもあります。
夏目高平(2000年政経)

モスクワ在住5年、ロシアのメディアで記者をしています。先日、シベリアの町ヤクーツクの人と知り合いました。冬が8カ月も続くこの町では、日本企業の最新技術を使ってトマトの温室栽培をしています。このトマトはおいしく大人気で、その方はお正月のプレゼントにするため3時間待ってようやく3個買えたそうです。大都市はIT化が進み便利になりましたが、

地方の生活に密着した分野で日本企業が活躍しているのを見ると、日本人としてうれしくなります。

徳山あすか(2006年文学)

モスクワ稲門会に参加するのは5年ぶり、2回目です。会員はすっかり入れ替わっていましたが、そこは心配無用。校歌の一節にある「集り散じて 人は変れど」とおり、今回も年代や業界を超えたすてきな人生の先輩や後輩と巡り合う機会に恵まれ、また今後も多くの方々とお会いできることを楽しみにしています。留学生のお話を聞くと早稲田界隈の様子もだいぶ変わったようで、帰国の際には足を運び、友人らと旧交を温めたいと思います。

匿名希望(2003年理工)

北の大地での生活も転職に伴う帰国を挟んでもうすぐ9年目を迎えます。この間、結婚・出産もあり、その時々喜びや苦労を味わいながらロシアという国の大きな変化を目にきました。ロシアでの体験を共有する先輩・後輩との交流は、常にアットホームでありながら学ぶところも多く、在学中よりも母校を身近に感じています。これからも稲門のご縁を大切にしながら、モスクワで新しい思い出を作りたいです。

菅 聡史(2005年文学)

モスクワ稲門会について

モスクワ稲門会は2007年の設立でまだ新しく、会員数37人のごちんまりとした会です。会員は1970年代の卒業生から現役学生まで幅広い年代のさまざまな方で構成されています。行事は夏のバーベキュー、冬のボウリング、春秋の例会などで、参加者が少なく寂しくなりそうな行事はモスクワ三田会との合同開催も。ひとつたび行事となると皆さん生き生きと動いて、イベントを楽しそうに盛り立てておられ、それぞれが過ごされた稲門時代がしのばれます。ロシアに来られる方は、滞在期間の長短や滞在地域にかかわらず、ぜひご入会ください。仲間が見つかり、生活・お仕事に有用な情報も手に入ること請け合いです。ロシアの厳寒の冬も楽しく一緒に乗り切りましょう。

浅崎敏夫(1995年文学)



早慶合同バーベキュー大会。流しそうめんやスイカ割りもあり、子ども達も盛り上がった

モスクワの魅力

モスクワは日本人にはあまり人気のない場所ですが、実際に訪れたほとんどの人たちはポジティブサプライズを持って帰国していきます。

モスクワの魅力の一つとして挙げられるのはその美しい景観です。市の中心部には歴史的建造物が立ち並び、市内をゆったりと蛇行して流れるモスクワ川に囲まれた自然と合わせて訪れる人々を魅了します。

冬のモスクワはその寒さから避けられがちですが、街のライトアップは非常に美しくおすすめです。クレムリンもライトアップされて美しいですが、その近辺のグム百貨店やニコルスカヤ通りという歩行者天国のライトアップも魅力的です。

モスクワでは音楽などの芸術を楽しむのもおすすめです。日本では敷居が高いバレエ、オペラ、クラシックもモスクワでは数多くの劇場があり、気軽に楽しむことができます。しかもレベルが非常に高く、この国の文化レベルの高さを実感します。

百聞は一見にしかずという言葉はまさにこの

モスクワに当てはまると思います。だまされたつもりでぜひ来て、その目で見てください。

高橋大介(1992年理工)

(上)モスクワ川クルーズから見たクレムリン
(下)ニコルスカヤ通りの冬のライトアップ

